

■ トークセッション「温泉地のユニバーサルデザイン」



【コーディネーター】
(株) ユーディット代表取締役社長
関根 千佳 氏

【概要】

増加する海外からの観光客や、三世帯・ファミリー層への配慮といった、観光地におけるユニバーサルデザインは、今や日本の重要課題です。多くの観光資源の中でも、「温泉」は日本独自の癒しの文化であり、多様な年代やニーズを持つお客様に満足していただく必要があり、これからの温泉地には、アレルギーなどに配慮した食事、多言語に対応したサービスなどが必須です。

このセッションでは、温泉地に求められる様々なユニバーサルデザインの視点を、多彩なパネラーから語っていただき、嬉野から世界に発信しようとしている新しい旅のスタイルやおもてなしのユニバーサルデザインについて、共に探っていきます。

< 事例発表・話題提供 >



【パネラー】
佐賀嬉野バリアフリーツアーセンター会長
小原 健史 氏

【概要】

佐賀嬉野バリアフリーツアーセンター（以下「BFTC」）は、三重県の伊勢志摩BFTCの理事長との出会いを経て、高齢者、障害者、外国人の方々に対し佐賀県内及び西九州全体の観光の情報提供、旅館・ホテル等のユニバーサルデザイン化の推進を目的として平成19年12月に創設しました。

現在、高年齢、身体的、精神的、外国語の4つのバリアをクリアすべく、ニューミックステニス大会等のイベントやユニバーサルデザインに関する講演会・研修会の開催、iPadを活用したユニバーサルデザイン客室利用者の意見・感想の収集など多角的な事業を展開しています。

また、初めての人でも温泉の入り方が分かる「温泉ピクトグラム」を佐賀県、博報堂ユニバーサルデザインと共同で開発しましたので、この大会を契機に全国に向けて情報発信したいと思います。



【パネラー】
沖縄県久米島観光協会久米島食物アレルギー
対応委員会委員長 平良 博一 氏

【概要】

現在、人口の約2%、乳幼児から小学校までの約5～10%の方は何らかのアレルギーを持っていると言われています。また、アレルギーを持つ子どもがいる家族は、家族旅行を諦めたり、宿泊施設に自ら炊飯器を持参するなど多大な苦勞をされています。

久米島では、この現状を踏まえ、久米島まで来ていただく他の地域にない理由の創出、アレルギーを持つ家族の切実なニーズ等に対応できる旅行商品の開発に取り組み、10品目除去のアレルギー対応食の提供、「久米島コンシェルジュ」による旅行のコーディネート、公立久米島病院による24時間救急医療体制でのサポートを行っています。

平成20年から食物アレルギー対応に関する事業を始めて、現在600名弱の家族の方が来島され、たくさんの喜びの声をいただいていますので、今後もこの事業を続けていきたいと思っています。



【パネラー】

外国語講師
村川 カルミナ 氏

【概要】

私が経験した日本の温泉は、とても素敵であり、エキゾチックでユニークでしたが、知らない人の前で洋服を脱いで入浴することは母国にはない入浴方法でしたので、とてもカルチャーショックを受けました。

温泉について諸外国の方々と話をすると、水着を着用せずに裸で入浴する日本の文化に驚かれますし、温泉は「熱い」というイメージを持たれているようです。また、温泉の清潔感、例えば、感染症が移るのではないかなどの不安を持たれているようです。

日本に限らず多くの国ではストレス社会になっていますが、私はストレス解消の場所は「温泉」と考えています。温泉は年齢を問わず誰でも楽しめる場所であり、美容や健康にも良いので、その効果をもっとPRしていただきたいと思います。



【パネラー】

長崎国際大学学長
潮谷 義子 氏

【概要】

多様な方々を想像して、この方々が本当に快適であるということを経験するためにはどうすればいいか、ということを経験したり作り出したりすることもユニバーサルデザインです。例えば、嬉野で取り組まれている外国語表示や温泉ピクトグラム、また、盲導犬、手すりや呼鈴の設置箇所などもユニバーサルデザインの視点で対応する必要があります。

ユニバーサルデザインは、プロセスを重視しながらエンパワーメントしていくこと、完結型ではなくスパイラルアップしていくことが重要です。プロセス重視、エンパワーメント、スパイラルアップ、パートナーシップを協働で実施することにより、「嬉野ここにあり」と全国に向けて自己主張できる姿になっていくと思います。

また、ユニバーサルデザインは社会を変革し、新しい価値を生み出していくことができるので、多様な方々を想像して考えていただければ非常に良いものが出来上がるのではないかと思います。

<質疑応答>

◎関根氏

ユニバーサルデザインは、どちらかと言うとハードウェアに注目が集まりますが、パネラーの皆さんの話にもあるように、ソフトウェアも非常に大事であり、例えば、ユニバーサルデザイン客室を整備することだけでなく、外国語対応や堪能な手話ができるスタッフを揃えることもユニバーサルデザインだと考えます。また、ホームページ、カタログ等の色使いも配慮していただく必要があります。まずは、できることから変えていきましょう。

それでは、パネラーの皆さんにマイクをお返しします。

◎潮谷氏

高齢者が多くなると、美味しい食べ物を噛む咀嚼力が弱くなる方も多くなりますが、嬉野ではどのような配慮がなされていますか。

◎小原氏

嬉野温泉の旅館では、咀嚼力が弱くなった方に対して、刻み食やミキサー食を提供することがありますが、多様なものをミキサーに入れると灰色になるため、食べ物をプリン状で提供できる凍結含浸法を今後取り入れていきたいと考えています。

◎関根氏

「美味しくなければユニバーサルデザインではない」が私の持論ですが、美味しそうに食べられるユニバーサルデザイン食やアレルギー食が増えてくるのが、これからの高齢化社会にとって大事なことでありと考えます。

◎潮谷氏

全国大会が嬉野で開催されていますので、嬉野のまちが本当に素敵に変わって欲しいとの願いがあります。「行き良いまちは暮らし良いまち、また行きたくなるまち」ですが、佐賀嬉野BFTCをこれからどのようにしていこうと考えられていますか。

◎小原氏

佐賀嬉野BFTCは、観光協会や旅館組合の方々が中心となり活動していますので、ビジネスとして捉えています。ひとにやさしく、かつ、利益が得られるようなシステムでなければ活動を継続していくことは困難だと思います。これからの日本は少子高齢化がさらに進み、外国人観光客が増加しますので、今後、各地域にあるBFTCやユニバーサルデザインセンターが重要視されると考えます。

◎関根氏

日本の観光地は、これから外国人観光客や高齢者が増えてきます。また、2代目、3代目の方々が来てくれるような観光地であり続けるためには、ファミリー層にもやさしいことが大事です。嬉野の温泉地も0歳児から100歳の方まで来ていただけるようなまちになってほしいと思います。嬉野について、何かありませんか。

◎平良氏

久米島の食物アレルギー対応食を嬉野で取り組まれる場合は、是非協力したいと思います。久米島は9,000人弱の小さな島ですが、まとまりやすく、地域の方々の連携がしやすい環境でしたので、この取り組みができたと感じています。

◎村川氏

私も、イタリア語やスペイン語による説明など喜んで協力したいと思います。

◎関根氏

嬉野も久米島と同じように「小さなまち」であり、まとまりがありますので、ユニバーサルデザインに取り組むことができると思います。私たち一人ひとりが「小さなまち」のつもりで、自分が変わること、自分が意見を出すことによって、周りの人たちを変えていくことができます。まちが変わることにより、近隣のまちの方々にも影響を及ぼすこともできます。

「小さいまち」だからこそ、声をあげることによって何かを変えられる、嬉野がその実例となるよう一生懸命努力していただければと思います。

■まちづくり分科会「繰り返し訪れたい嬉野、住みたくなる嬉野」



【コーディネーター】
静岡文化芸術大学デザイン学部
空間造形学科教授
古瀬 敏 氏

【議論主旨】

人はどこかに住まなければならない。どこに住まうか選択の自由があるときに、「このまちがいい」と言ってもらえる要件は、「あなたには住みにくいよ、住めないよ」と排除されないこと。そうやって排除される高齢者や障害者を若い世代と女性たちの人手で支えてきたこれまでのやり方は、もう限界である。「すべての人のために」を理念としているユニバーサルデザインが、あるべきまちのかたちを議論するものさしになる。

まちづくり分科会では、地元嬉野を例として、住みやすいまち、そして観光客として何度も訪れたいまちであるためには、どうなっていなければならないのか、どうすればいいかを考えます。

<事例発表・話題提供>



【パネラー】
(株)ジー・バイ・ケイ代表取締役
梶本 久夫 氏

【概要】

愛媛県松山市では「フィールドミュージアム構想」を掲げ、松山城を中心に5つの拠点をつくり、まち全体を一つの博物館として捉え、回遊性のあるまちづくりが行われています。例えば、ハード面では全国に先駆けて市内全域に光ケーブルを敷設するなどユニバーサルデザインの視点でのブロードバンド整備がなされています。また、ソフト面では、行政サービスの向上を図るため、総合窓口によるワンストップサービスにも取り組まれています。

ブラジルのクリチバでは、環境、土地利用、交通、福祉など優れた都市計画によるまちづくりが行われています。この特徴は、自動車中心から住民を中心とした都市政策の変更であり、主たる交通手段であるバスでは、専用レーン、3両連結、チューブ型のバス停など効率良い仕組みになっています。また、環境の普及・啓発、治水対策などについても独自の取り組みが行われています。



【パネラー】
嬉野市長
谷口 太郎 氏

【概要】

嬉野市では、平成19年3月の「ひとにやさしいまち」宣言により、佐賀嬉野バリアフリーツアーセンターの開設、嬉野温泉旅館におけるユニバーサルデザイン客室の整備、ユニバーサルデザイン対応の公衆浴場「シーボルトの湯」の再建、英語・韓国語を表記した観光サインの設置など、ひとにやさしいまちづくりに取り組んでいます。また、嬉野温泉は、全国の温泉地として初の健康保養地の指定を受けるとともに、旅館組合を中心に乳がんを患った方々に温泉を楽しんでもらう「ほっとマンマ in 嬉野」を続けています。

全国大会を契機に、嬉野市では、すべてのひとが市民生活や観光を楽しむことができるまちづくりを進める「公共スペースのユニバーサルデザイン」、計画中の嬉野温泉駅、バスなどのユニバーサルデザイン化を進める「公共交通機関のユニバーサルデザイン」など5本の柱を基本とした新しいまちづくりを目指して努力していきます。



【パネラー】
佐賀県建築士会理事
三原 ユキ江 氏

【概要】

電力、通信施設を地中化する嬉野地区電線共同溝整備事業については、景観整備検討委員会において、歩道空間の確保と街並みの景観公序の観点から話し合いを進めた結果、歩道舗装は透水性脱色アスファルト舗装、防護柵の色はダークブラウン、街路樹はピンク系のハナミズキに決定しました。この事業は、都市災害防止、安全で快適な歩行空間の確保、都市景観の向上、情報通信ネットワークの信頼性の向上などの効果があります。

私がユニバーサルデザインの施設や道をつくる際、過程を重視し、使いやすいデザインを追及します。また、利用者に特別な意識を与えず、地域住民と協働してユニバーサルデザインを作り上げたいと考えます。

なお、今朝の8時過ぎには嬉野温泉商店街の一部のお店が開いていましたので、是非昼間の時間帯にはすべてのお店が開き、女性が昼間訪れても楽しく散歩できるまちになってほしいと思います。



【パネラー】
(株)福山コンサルタント本社事業部
課長補佐 山本 英治 氏

【概要】

国や各自自治体では財政が逼迫する中、エンドユーザーの視点に立ち、選択と集中により、本当に必要なものをブラッシュアップしてまちづくりを進めていく必要があります。一方、環境配慮型の施設整備、プロセス段階からボトムアップによるまちづくり、ユビキタス社会の構築、外国人観光客への対応などの課題もあります。

まちづくりを盛り上げるためには、住みやすさや暮らしやすさに重点を置き、アクションプログラムを作成し都市計画に反映すること、また、観光振興に重点を置き、IT等を活用した外国人にもやさしいユニバーサルデザイン化が必要であると思います。

今後のまちづくりに必要なものとして、優先度をつけてのアクションプログラム化、市民のまちづくりへの積極的参加、ユニバーサルデザイン化の効果評価手法の確立、相乗効果を見すえたまち全体のネットワーク化、ICTの利活用などが大きなキーワードになると考えています。

<質疑応答>

◎古瀬氏

防災とバリアフリー化をセットで改修するかどうか逡巡している場合、行政がプラスアルファとして補助金を出して支援するとすれば、かなりの効果が得られるのでしょうか。

◎山本氏

防災とバリアフリー化をセットで改修する場合の補助金制度があるか分かりませんが、景観の分野では、デザインの質を高める努力に対し補助金をプラスされる制度があります。建物のユニバーサルデザイン改修に伴う補助金制度があれば、ユニバーサルデザインの促進につながるのではないのでしょうか。

◎三原氏

嬉野市の場合、これからユニバーサルデザインを推進されていかれると思いますので、建物のユニバーサルデザイン改修に伴う補助金制度があれば、とても有利になると考えます。

◎谷口氏

一般の建物を改修する場合、高齢者がいらっしゃる家庭に対しては、いくらかの補助金等がありますが、バリアフリーという視点での取り組みで終わってしまいます。ユニバーサルデザインという視点であれば、もう少し幅広い観点で考える必要がありますので、しっかり勉強していきたいと思います。

◎梶本氏

高知県で取り組まれている「たまごの割れない道づくり」をグッドデザイン賞に推薦し表彰されたことがあります。賞を得ると新聞、テレビ等で報道されますので、ユニバーサルデザインを理解していただくためには、賞を得ることも意外と効果的ではないかと思えます。

◎古瀬氏

私が20年近く前に建設省で「長寿社会における居住環境向上技術の開発」のプロジェクトに参加していたとき、建築系と都市系のテーマで議論をしましたが、都市系の出した結論で良く分かったのが「まちに出て歩き回れるようにするためには、数百メートルごとに座って休めるベンチや気軽に簡単に使いやすいトイレが必要」ということでした。

嬉野を歩いて一休みしたいとき、お金をささずに休める場所や使いやすいトイレの状況はどうなっているのでしょうか。

◎谷口氏

佐賀県では、「みんなのトイレ」という制度があり、市内の公共施設、旅館などに協力していただいています。まだ十分とは言えませんので、まずは「みんなのトイレ」を増やしていきたいと考えています。

◎三原氏

昨日、嬉野温泉商店街を歩いていると、各店舗に「ユニバーサルデザインのお店です」と書いてあるサインボードが掲出されていました。そこには「お茶の休憩ができます」などが書かれていましたが、これはお金をかけずにできるユニバーサルデザインであり、素晴らしい取り組みですので、これからも増やしてほしいと思います。

◎梶本氏

長野県松本市では「松本おかみさん会」が中心となってシール形式ですが、嬉野温泉と同様の取り組みを実施されており、好評を得ているようです。



分科会の主旨説明



分科会の全景



分科会の受付と展示

<参加者を交えての質疑応答>

◎参加者

ユニバーサルデザインを考える時に、多くの自治体でグランドデザインがありません。グランドデザインがないために商店街が疲弊し、潰れてしまうこととなります。各自治体は、グランドデザインや方向性をしっかり考え、水準の高いまちを作りあげていくことが重要であると考えます。また、日本は人口減少社会に移行しており、2050年には雇用人口の減少や公共交通システムの問題が起きることとなります。新しいユニバーサル社会を作っていくためには、まちなかと交通を守っていくことが必要ではないかと考えます。

◎谷口氏

まちづくりを検討するに当たっては、まずはグランドデザインを作ることが理想ですが、予算的に追いつかないのが実情です。嬉野市の市街地も空洞化しつつありますが、新幹線開通に伴う駅ができるなど新しい交通網の中に入る大事な時期に来ていますので、しっかり勉強していきたいと思えます。

◎参加者

行政に、車いすの方と一緒に入れるトイレやベビーベッドを設置しているトイレの場所を尋ねた際、トイレの場所を把握されていなかった経験があります。そこで、個人でこのトイレの情報を集め、携帯のサイトに掲載していますが、このことを聞いていただける機会が少ないようです。個人で取り組む活動に対して何か発表できる場はありませんか。また、まちづくりに市民が参加する道筋があれば教えていただきたいと思えます。

◎谷口氏

予算を使って、個人の情報を広範囲に周知することになると、受け手側の問題もあり難しい面があります。社会福祉協議会や行政と話をさせていただき、情報を共有できればと思えます。

◎山本氏

個人よりも社会的立場のある組織でないと行政としては受け入れられない現状がありますので、NPO法人という形を取らずに任意の団体で活動することもできるのではないかとと思えます。

◎三原氏

佐賀県では、「みんなのトイレ」の協力が得られると、佐賀県のユニバーサルデザインのホームページに掲載されることになっています。現在、相当数のトイレが掲載されており、大まかな場所も分かるようになっています。また、このホームページを見ていただくと、佐賀県のユニバーサルデザインの取り組みが一目瞭然で分かります。



分科会会場の案内



会場内のサイン



コミュニケーションボードの展示

◎参加者

嬉野市のユニバーサルデザインのまちづくりのコンセプトの中で地縁組織との関わりについて教えていただきたい。

◎谷口氏

嬉野市では、校区別に地域コミュニティ制度を始めています。今年度から、全体事業費に多少配慮した形で予算を編成していますが、すべての校区でこの組織が出来ているわけではなく、準備段階の地域もあります。しかし、数年後には、市内全体の地域コミュニティの組織が出来上がりますので、地域のまとまりとして活動していくものと考えています。

<最後に各パネラーから一言>

◎古瀬氏

最後に、議論を振り返って、一言ずつお願いします。

◎梶本氏

地球の60%以上の人間が都市に住むような時代が来ると、自己責任で健康を守ることができなくなります。これからのまちづくりは、市民参加の問題、後進国が抱えている水、貧困、犯罪などの問題について、みんなで考える時代になり、人の健康、地球の健康、社会の健康といった「健康」がキーワードになると考えています。

◎谷口氏

嬉野市は、ユニバーサルデザインの考えを基本に置きながらまちづくりを進めていますが、まだ十分とは言えませんので、一步一步学びながら、全国大会を契機として、新しい嬉野のまちづくりを進めたいと考えています。

◎三原氏

嬉野のまちには、温泉、お茶、焼き物等があり、市町村合併によって塩田のまちもクローズアップされていると聞きました。回遊性のある観光を提案していただき、特に女性が来て、嬉野温泉に入り、楽しかったと思えるようなユニバーサルデザインのまちができることを期待しています。

◎山本氏

皆さんの話を聞いて、都市が戦略を持ってランドデザインを描いて価値をどう高めていくのか、社会的にどう経営していくのかという視点が必要になってきていると強く感じました。

◎古瀬氏

佐賀県や嬉野市では、人口減少による危機感は共有されていますので、ランドデザインを描かれていると理解しています。本日の分科会で出された課題と可能性のあるような知恵がいくつか交錯したかと思しますので、これを持ち帰り、将来に繋げていただければと考えています。